

ビジネスアイデアの概要

- 課題：多くの患者さんに共通して、周囲に“迷惑をかけたくない”という感情＝SPBを抱き、本音を言えないという悩みがあります。その結果、必要な時期に適切な支援を受けられず精神的な負担が増大するという課題があります。
- 活用する技術シーズ：複数のインタビューを基に、SPBが起きやすい時期を可視化しました。SPB予兆検知アルゴリズムを構築し、患者さん一人ひとりが適切なタイミングで必要なケアを得られるようにすることで、患者さんのQOL向上を目指します。

ビジネスアイデアを事業化するための課題

- 技術面：誤検知を回避するための証明
- 運用面：導入効果の実証データの不足
- ビジネス面：ビジネスモデル、マネタイズの具体化

事業化の見通し

これまでに、ユーザーの会話を受け取り、生成AIで回答を返すアプリを独自に作成し、運用できる形まで整えています。会話をログとして保存し、解析につなげる流れを作っており、SPB検知に必要なデータ取得の入り口を確保しています。

今後は、取得したデータの解析を進め、SPB予兆検知アルゴリズムを構築します。重要なのは、AIが検知して終わりではなく、人が確認してから次の対応につなげることです。サービス全体の設計を具現化し、事業化に繋がります。

事業者情報

横浜国立大学 総合学術高等研究院
IMS客員助教

江口侑子

ビジネスアイデア概要図等

個別で適切なタイミングの支援につなげる

